

陰 進

週刊

2024年 7月 第4週

発行元 最前線
anarcho.clitorist@gmail.com
担当・記事 仁科 夏瑚
記事 津島 龍三

保存用 紙版

1ヶ月 500円

月毎に郵送いたします。
詳細は上記連絡先まで

「自立」と「協力」のもとに集え
クリトリスはアナーキストである！

カトリヌ・マラーブ
『抹消された快楽 クリトリスと思考』より



徒党
陰核派

トランプ前大統領暗殺未遂事件 新しい民主主義の幕開け

七月十三日、ペンシルバニア州でドナルド・トランプ前大統領が銃撃される事件が起こった。銃弾はトランプ氏の右耳上部を貫通するも、致命傷は回避される結果となった。同氏は保護された後、立ち上がった拳を掲げ無事をアピールした。



▲星条旗を背にするトランプ氏。奇跡の一枚として話題に。

この銃撃に巻き込まれ、観衆のうち二名が負傷、一名が死亡した。死亡した元消防士のコーリー・コンパートアさんは、一緒に来ていた妻を庇い、頭部に銃撃を受けた。本事件は今年の大統領選で、トランプ氏に優位に働くと見られている。

容疑者は

共和黨員

シークレットサービスは狙撃犯と思しき人物をその場で射殺。その身元について、十四日未明に、同州ペゼル・パーク在住の男性、トーマス・マシュー・クルックス氏だと発表した。容疑者は演台から一三〇メートル離れた建物の屋根の上から銃撃したと見られる。SSトップのチートル長官は、本件護衛の不備の責任を負い、辞任する運びとなった。

同氏は二〇二一年一月に民主系系の投票率向上団体に十五ドルを寄付。同九月には共和黨員として有権者登録をしたことが明らかになっている。動機や政治的見解については依然不明であり、断定するのは早計だろう。

バイデン現職 大統領選撤退へ

事件により、一時はトランプ氏の勝利は確実との声もあった。敗色濃厚とみたバイデン氏は二日に大統領選撤退を表明した。もともと同氏は、その言動の不安定さから、大統領としての職務遂行能力が疑問視されていた。



▲ハリス副大統領

後任にはカマラ・ハリス副大統領を支持。ハリス氏の支持率はバイデン氏の時よりも改善している。今後は高齢のトランプ氏に対して年齢面で差別化できることになり、その点では好判断だったといえる。

一人一票から 一人一殺の時代に

本事件からとりわけ連想されるのは、二〇二二年の安倍元首相の銃殺事件だろう。容疑者・山上徹也氏の動機は、同氏の旧統一教会への積極関与だと見られている。事件以降、旧統一教会に対してはメディアの手が及び、現在も解散命令請求をめぐって裁判が行われている。テロルは確かに社会を変えたのだ。

的意図に則した結果をもたらしたかは定かではない。むしろそうではない可能性の方が高いだろう。しかし、本事件が歴史を動かしたことはやはり疑いようがない。近年、スクールシューターや、無差別殺傷など、個人テロルが活発化している。今の民主主義は「一人一票」から「一人一殺」へ。一人一人の強い決意に基づく直接行動こそ、真の意味での一般意志の表明となる。(文・仁科夏瑚)



▲銃弾は紙切りより強い

ピエール・クロソウスキーは、哲史上の伝達可能な事柄の思考・伝達を使命とする思考と語りを拒む点にニーチェの語りの特質があると指摘する(『ニーチェと悪循環』2004年 金子正勝訳 ちくま学芸文庫)。それは意識や理性の統御による秩序ある、体系的な事柄を(伝達可能な事柄を)語るのではなく、断片的、非体系的な思考によって語るということだ。ニーチェがしばしば採用しているアフォリズムという文体はこうした思考の表れだといえる。

論考

思考の限界をめぐる ニーチェの文体

ニーチェの著書の多くは(特にパーゼル大学教授職を休職した後のものは)、彼が生涯で患った酷い頭痛や眼病、躁鬱といった病の苦しみから生み出された。「曙光」114節にあるように「苦痛と抵抗しようとする知性の途方もない緊張は、彼が今眺めるすべてのものを新しい光の中で輝かせる」

連載再開

漫画: 仁科夏瑚



もう一度言ってみようか? やるうか? あたしにとってこの発表は、何ら変わらない平穏なものだ。屋下ガリのコーヒーとブレイクと

ニーチェの著書の多くは(特にパーゼル大学教授職を休職した後のものは)、彼が生涯で患った酷い頭痛や眼病、躁鬱といった病の苦しみから生み出された。「曙光」114節にあるように「苦痛と抵抗しようとする知性の途方もない緊張は、彼が今眺めるすべてのものを新しい光の中で輝かせる」

